

白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊の会

b y a k k o t a i n o k a i

会誌 11 号

Vol.11 2021年4月

白虎隊の「義」後世に



目次

本年度をふり返って	飯沼一元	2
白虎隊記念碑特集		3 - 14
1. 山川健次郎霊石安置		3
2. 白虎隊自刃の地説明版		4 - 5
3. 白虎隊が辿った道彫刻石		6
4. 大窪山墓地案内図		7
5. 白虎隊戦闘の地案内版		8
6. 白虎隊士生家跡記念碑		9
7. 白虎隊士生家跡案内図		10



発行者 白虎隊の会

8. 日下義雄顕彰碑	11
9. 恩愛の碑	12-13
10. 塩川の飯沼貞吉ゆかりの地	14
会津の見どころ	石田明夫 15
寄稿1：絵本ゆめやの会津感	長谷川敏夫 16-17
下関便り	吉井克也 18-19
寄稿2：伝承阿部内膳とミキ姫	安司弘子 20
本部便り	飯沼一元 21
会員名簿	10-11
編集後記	飯沼一元 12

本年度をふり返って

事務局長 飯沼 一元

世界中がコロナに蹂躪された一年でした。

当会も当初予定していた記念碑設置事業も会津旅行も全てキャンセル。東京は特に感染者が多く緊急事態宣言に従って引きこもりを余儀なくされました。

ウイルスがもたらす感染症は、古代人類の起源と共にあったといわれる。中でも、百年前の1918年〜1920年に発生したスペイン風邪は、日本で感染者が2300万人、死者38万人で、新型コロナと比較すると感染者（9万人）で250倍、死者（1700人）で230倍と桁違いである。

大山捨松とスペイン風邪

大山捨松がスペイン風邪に感染して亡くなったのは1919（大正8）年、享年58歳、第一波の末期だった。捨松は山川健次郎の妹で飯沼貞吉とは従妹に当たる。11歳にして岩倉使節団の一員として渡米、帰国後、陸軍大臣の大山巖と結婚した。鹿鳴館時代には留学で身に着けた英語とダンスを自在に操り「鹿鳴館の貴婦人」と言われた。スペイン風邪が上陸したのは1918年9月で神奈川、静岡を皮切に蔓延し、その後全国に広がった。当時、大山邸は穂田村（現在の渋谷）にあり出入り客も使用人も多かった。1919年1月、使用人が感染し、捨松も感染した。病をおして津田塾長代理の就任式を見届けた彼女は床に伏し、肺炎を併発。そして2月

18日に還らぬ人となった。

コロナ感染症について

コロナはウイルスの一種。ウイルスは自分だけでは生存できないので宿主に寄生することで遺伝子を繋ぐ。つまり、人に感染して初めて生存できる。感染は飛沫を通じた経口感染が大部分なので、3密（密閉・密集・密接）を避ければ感染しない。これまでの感染症では、発症前には他人に感染することはなかったが、新型コロナは、発症前2〜4日で感染する。この発症前感染が新型コロナのこれまでになかった恐ろしさと言える。

但し、濃厚接触者がすべて感染するわけではない。ウイルスが体内に侵入しようとすると免疫細胞がこれを撃退するように働く。

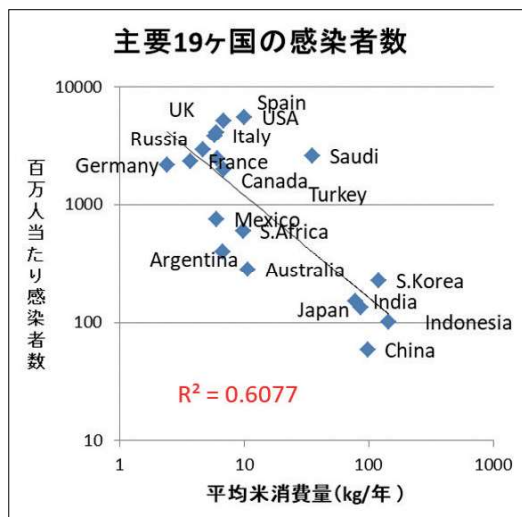


図 米消費量と感染者数の散布図

米を主食とする国は感染者が少ない

免疫能は個人差が大きく特に、食事の影響を強く受けることが知られている。そこで、筆者らは米消費量とコロナ感染者数の相関を統計的に分析した。図に示すように世界の主要19カ国に45億人に対して強い負の相関が確認できる。同様に小麦消費量との関係を調べると正の相関となる。日本の感染数は欧米の40分の1と少ないが、その原因の一端は米食にあると言える。パン食よりコメ食の方が感染抑止力があるのは免疫力の違い。なお、パン・麺・菓子などばかり食べると、感染し易くなるので要注意。

本号の編集方針

自宅待機が余儀なくされたことは、普段でない研究に取り組めるチャンスでもある。今年の前半はコロナの調査・研究に集中し論文も執筆した。

本稿では以下、白虎隊の会がこの10年間に取組んできた活動の内、設置した記念碑を中心に取りまとめることにした。振り返ってみると、「継続は力なり」で、「白虎隊の義を後世に！」というスローガンが足場を固めつつあるように思う。

また、本会の活動を通して得られた新しい仲間に寄稿もお願いした。皆様のご協力のお陰で24ページ仕上りの豪華版ができたこと自負しています。コロナが収束するには未だしばらくの時間が必要ですが、本号を楽しんでいただければ幸いです。

一、下関万骨塔山川健次郎霊石の安置

下関支部長 吉井克也

萬骨塔は、昭和八年に長府毛利藩士の子として生まれた桂彌一が私財を投げ打ち建立した。

彌一は、吉田松陰の意志を受け継いだ品川弥二郎らの志を実現するため、「長門尊攘堂」（現長府博物館）の建設にあたり、萬骨塔はこの建物と同時に築造された。『一将功成りて萬骨枯る』から命名され、一将の功は、無名戦士の犠牲の上になりたっており、国のため世のために尽くしながら散っていった士を祀るための塔である。全国各地から寄せられた霊石の中には、会津白虎隊霊石もある。会津の佐藤一男氏が紹介記



図1 下関功山寺万骨塔



図2 万骨塔にある白虎隊霊石

大将も自分の精神を受け継いでくれるのは山川先生と高く評価していたという二人の関係と、霊石安置までの経緯について、思いを込めて紹介された。そして、「この霊石安置が東日本大震災の被災者の方々のお力の一助になれば」と締めくくられた。

事を新聞に掲載しているが未だ知る人は少ない。

平成23年10月20日にこの地に白虎隊士山川健次郎霊石が安置され序幕式が執り行われた。長州と会津には強いわだかまりが残っている。幾多の困難の中で関係者の粘り強い努力が実り、その最初の接点を実現できたと思う。

序幕の引綱は、木下健、飯沼一元、佐藤一男、石田明夫、柏木隆之助、金田満男、阿座上晴章、西岡輝昭、鍋谷隆、吉井克也の諸氏が持つ。

引き続き式典が執り行われ、金田会長が山川先生は、乃木大将を「信の人」と尊敬し、乃木

清々しい秋空の下で、会津と長州の心が溶け合うような深い感動が、ご参列の皆様方にも広がっていった。



図4 虎隊霊石の序幕



図3 白虎隊霊石の直ぐ上に安置された山川健次郎霊石

二、白虎隊自刃の地説明版の設置 — 事務局長 飯沼 一元

飯盛山を訪れ、正面に並んでいる白虎隊一九士の墓をお参りする人の殆どは、白虎隊悲劇物語を想起すると思われる。次に、正面右手の小道を進むと、「飯沼貞吉の墓」が現れ蘇生者が一人あったことを知る。更に奥に進むと階段があって、これを下ると「白虎隊殉難士各霊塔」がある白虎隊自刃の地に出る。そこで、鶴ヶ城を望む「少年隊士像」を見て、「炎上する城下を見て自刃した」という通説に納得し、鶴ヶ城がど



図1 飯盛山にある白虎隊自刃の地

こかを確かめて帰路に就く。

籠城戦が自刃後一か月も続いたことや、白虎隊の自刃理由には特に関心を示さない。

広辞苑で白虎隊を引くと「十九人の少年は城陥ると即断して城外の飯盛山で自刃した」となっている。他の国語辞書も同様で、「落城誤認説」は百年前から定説になっている。

しかし、平成20年（2008）に発見された飯沼貞吉が残した自筆文書「白虎隊顛末記」には、自刃理由は「武士の本分を明らかにするため」と明記されていた。「落城誤認説」と「武士の本分説」とでは雲泥の差がある。一口で言えば、前者は「子供たちの早とちり」、後者は「ならぬことはならぬ」である。

そこで、「白虎隊の会」では、本会の最初の事業として飯盛山白虎隊自刃の地に説明版を設置することとし、創立当初から準備を進めてきた。実行に当たって、まずは地元関係者の了解を得ることが必須である。会津支部では会津弔霊義会和墓地管理委員会に、本件の企画趣旨、説明文案、裏づけ資料などを用意して協力をお願いした。

平成23年（2011）4月6日に弔霊義会から本会宛に申入書が提出され、8項目の検討事項が示された。佐藤一男氏・石田明夫氏に調整

をお願いし、8月初旬に合意が成立した。一方、構造物の設計については、天狗堂をお願いし、柱ステンレス百ミリ角・縦七十・横百・高さ百八十センチの構造が決定した。

除幕式は秋の会津祭りの初日、9月22日。主なご来賓は市長、弔霊義会理事長、墓地管理委員長、市議会議長、観光協会課長、商店会長、町内会長など。前日からの大型台風の影響で当日は交通機関が麻痺。郡山駅でタクシー乗り場に2時間行列し2万円かけて現地に到着したのは予定より3時間遅れ。おまけに、この頃から土



図2 白虎隊自刃の地説明板序幕記念写真（2011/9/22）

砂降りの雨となり、開催さえ危ぶまれた。

正に白虎隊にふさわしい波乱の幕開けである。しかし、開始5分前ぐらいから雨も小降りになり、約50名の参列者を得て、除幕式は予定通り遂行された。

この日、私(飯沼)は白虎隊の子孫として、あの日(白虎隊自刃の日)のことを思い浮かべていた。戦いに敗れ、仲間を失い、怪我人を抱えながらこの飯盛山に辿りついた。貞吉はこの時の状況を「南、若松城を望めば、炎焔は天に漲り、砲声は地に轟く。北、滝沢街道を看れば、敵兵の行進する其の数幾ばくなるかを知らず」と記した。

そして、帰城か玉砕かを巡って喧々諤々の議



図3 白虎隊自刃の地説明板

論を戦わした。結論を下したのは隊長代行の篠田義三郎だった。「自刃して武士の本分を明らかにする」。そして、貞吉は「議論ここに始めて定まり、おもむろに用意を為し、一同列座し鶴ヶ城に向い遙拝訣別の意を表し、従容として皆自刃したりき」と結んだ。

自刃は武士のデモンストレーションである。皇国にひたすら仕えながら、朝敵とされ、殺戮され、壊滅された。この理不尽に対して、彼らは抗議し、一糸乱れぬ自刃を以って、自分達の「義」を表現したのだ。「城が落ちた」と思い、殿の後を追った」などという幼稚で屈辱的な解釈が百年以上続いた。これ以上彼らを侮辱し続けなくてはならない。これは数奇な運命から命を繋いだ貞吉の孫の使命と自覚している。

翌日、河北新報に「落城誤認説退ける」という勇敢な見出を付けた記事が掲載された。地元の新聞にも記事は掲載されたが、内容はこまで踏み込んでいない。100年の重みは簡単に解消しない。広辞苑の誤解が解消するには後100年かかるかもしれない。しかし、白虎隊が歴史から消えない限り、白虎隊はなぜ自刃したかの自刃理由を伝承していく必要がある。

私は白虎隊の自刃理由と、「勝てないと知りながら会津が最後まで戦った理由」は同根だと考えている。一言で云えば、朝敵・国賊とされた理不尽への潔白の証である。

毎年、春と秋に執り行われる飯盛山白虎隊墓前祭で披露される祭文で、会津弔霊議会議長からこの趣旨に言及されるのを聞いたたびに、感慨深い思いをする。

飯沼は「先祖の名誉挽回を図っている」といわれることがあるが、私は白虎隊と会津の名誉を挽回したいのである。

「至誠貫天」——これが会津の魂である。



三、白虎隊の辿った道彫刻石 ― 事務局長 飯沼 一元

白虎隊の悲劇は慶応四年（一八六八）八月二十二（二十三）日（新暦十月九（十））の僅か一日の出来事であった。白虎士中二番隊三十七名は二十二日の昼ごろに鶴ヶ城を出立し、藩主護衛隊として滝沢本陣に出陣。ここで十六橋に迫る敵軍を阻止するべく援軍要請を受け、戸ノ口原方面へ進軍し、孤土山で一夜を露営。

新式銃で武装した敵約三千に対して、味方七百、内、西洋式軍事訓練を受けた正規軍は白虎隊のみという超ハンデキャップがあることも知らされぬ状況で、二十三日早朝、果敢に敵軍と交戦し撤退。約半数が飯盛山に至って、全員自刃した。唯一生存残った飯沼貞吉は後日、自刃理由は「武士の本分を明らかにするため」、自刃時刻は午前十時と書き残した。残る約半数の白虎隊士は帰城し、この後約一ヶ月に及ぶ籠城戦を戦った。

飯盛山を訪れる観光客は多く、十九士の墓に線香は絶えることがない。だが、白虎隊士のこの時の行動は、「落城と誤認し、殿のあとを追った」という悲劇物語として一蹴されてしまう。筆者は、白虎隊士の行動を少しでもよく理解して欲しいとかねがね考えてきた。そのための具体的な方法としては、説明板や案内図などが考え

られるが、美観の問題もあり中々進まなかった。「彫刻石」のアイデアは白虎隊の会会津支部から出された。黒みかげ石に直「白虎隊が辿った道」の図を彫りこむことで、戸の口洞門出口一帯の景観とマッチし、現地関係者の賛同を得ることができた。

「白虎隊が辿った道」の史実確認は石田明夫氏にお願いした。磐梯山の形状、猪苗代湖との位置関係、説明文など細部の調整も行われた。

また、同所の白虎隊士がくぐった「戸ノ口堰穴説明版」が老朽化していたため、この際、リニューアルすることで会津弔霊議会と合意し実行の運びとなった。

飯盛山弁天洞門前に「白虎隊が辿った道」彫刻石の除幕式が平成二四年九月に約四十名の参加で執り行われた。

この彫刻石には、戊辰戦争に出陣した白虎隊が戸ノ口原から飯盛山で自刃するまでの道のりが記してあり白虎隊の行動が一目瞭然で分かる。建立後、飯盛山を訪れる方が熱心に彫刻石を見て、出陣路・退却路が示してある部分を指でなぞりながら白虎隊を想い描きながら会話をしている姿が多くみられるようになった。飯盛山へお越しの際は是非ともご覧下さい。



図1 白虎隊が辿った道彫刻石（2012・9）



図2 白虎隊が辿った道案内図（2012・9）

四、大窪山墓地案内板

会津藩士の墓地は、藩祖保科正之公が寛文4年（1664）、儒教の教えに基づき火葬を禁じ土葬にしたことから、小田山南側の大窪山、一箕町滝沢の小山と坊主山の三ヶ所を集団墓地として定めたのが始まりです。なかでも大窪山は、西に隣接する善龍寺墓地と合わせると、約三千から四千の墓地があります。全国でも、これだけまとまった集団墓地は京都以外では珍しく、史跡として会津若松市指定文化財に指定されています。

西郷頼母邸で自刃した婦女子二十一人の墓、藩士の遺体埋葬に尽力した伴百悦、白河で戦死



図1 善龍寺山門

研究担当役員 石田明夫

した横山主悦や西郷家、飯沼家などの墓地があります。

ただし、「奈与竹の碑」や家老の「西郷頼母・千重子墓」から奥に入るのは素人には難しい状況にあつたため、善龍寺本堂前に大窪山墓地の案内板を設置することにしました。善龍寺はなよたけの碑で有名なので、訪問客はタクシーで善龍寺に行き、案内図を見て大窪山墓地に行くことができます。

平成25年9月に大窪山墓地案内図を設置し序



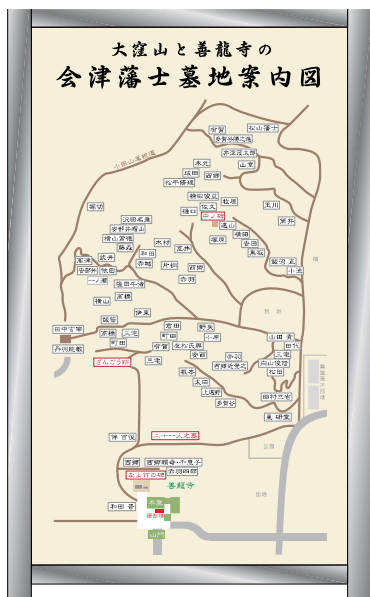
図2 大窪山墓地案内図序幕記念写真（2013/09）

幕しました。案内図はステンレス製で、高さ2・2メートル、幅1・15メートルの縦型看板です。場所は本堂前、案内図の設計は石田が担当、なよたけの会と護寺会

にも同席していただきました。

会津若松市長室井照平様、善龍寺住職寿上祐光様護持会会長田代詔則様、なよたけの会会長吉田幸代様、白虎隊の会会長の山本英市様、副会長の木下健様他全国から約50名の参列がありました。

翌年9月芦澤家のご子孫5人がこの地を訪ねた時の記事が会報5号に以下のように紹介されています。先祖の墓を訪ねて山麓まで行ったところ、善龍寺のご住職に遭遇しました。事情を話すと、今なら草を刈った直後だから歩き易いとのこと。せっかくだから、行けるとこまで行ってみよう、見取図を頼りに山道に入り、何度か迷いながらも進みました。夕日が沈む直前、もう引き返さねばと思った時、薄暗くなった木立の中で僅かに光の当たる墓石に「蘆澤」の文字が。「あつた、あつた！」思わず抱き合って喜びました。150年前の芦澤家の謎が解けた瞬間でした。感謝。



五、白虎隊戦闘の地案内板

事務局長 飯沼 一元

白虎隊士が自刃したのは飯盛山であることは殆どの人が知っている。では、白虎隊はどこでどのように戦ったのか？



図1 飯沼貞吉が描かせた白虎隊奮戦の図。左手が白虎隊、立って指揮しているのは篠田儀三郎。右手は新政府軍。絵師は梅里。原寸は41cm x 107cm。

白虎隊が出陣命令を受けたのは慶応4年8月22日。隊長日向内記は隊士37名を率いて藩主護衛役として滝沢本陣に向かった。ここで、敵が十六橋を突破して戸の口原に侵攻中との連絡受け、白虎隊は応戦のため前線へ進軍。一夜明けた23日早朝に戦闘が始まるのだが、予期せぬことに隊長が戻って来ない。混乱の中で、篠田儀三郎が隊長代行を買って出て敵の最前線部隊と対峙した。

貞吉は晩年にこれらの史実を手記するとともに、出入りの絵師に白虎隊奮戦の図を描かせた。戸ノ口原古戦場跡に「白虎隊奮戦の地」の巨大モニュメントがある。明治33年に設置されたものであるが、会津史跡に詳しい石田明夫氏の調査によれば、ここは白虎隊が戦闘した場所ではないという。調査の手がかりとなったのは上記の貞吉が残した手記と「白虎隊奮戦の図」であった。

石田氏は戸の口原周辺を徹底的に調査した結果、新たな発見をした。白虎隊奮戦の図は、右手に白虎隊と対峙する西軍が描かれ、左手に石地蔵と民家と山並みが描かれている。左右の図はそれぞれ別の場所を示しており、どちらも戸ノ口原近辺に実在するという。そして、戦闘の地は戸ノ口原古戦場跡から西に約1km入ったと

ここで、証拠となる塹壕が残っている。また、石地蔵は赤井の小坂に実在したという。そこで、平成26年9月磐梯山を真近に臨む会津若松市河東町にある戸ノ口原に「白虎隊戦闘の地説明板」を設置し除幕した。建てられた説明板は全部で4か所、4基。除幕式は会津の名水の湧く強清水の駐車場脇。案内板はステンレス製で高さ2メートル幅百六十五センチの横型看板である。会津若松市長、会津の衆議院議員らによる序幕が行われ、式には白虎隊の会員、会津藩士の子孫の方々など遠くは京都や神奈川から、その他報道関係者など50名ほどの参列があった。続いて会津一刀流剣詩舞道皆川盤陽氏より白虎隊詩吟を奉納して頂いた。



図2 白虎隊戦闘の地序幕記念写真（強清水駐車場）（2014/09）

六、白虎隊士生家跡記念碑

会津支部長 森川 敬寿

京都には幕末志士ゆかりの地に記念碑などが設置されているが、会津若松市にはこのような記念碑は皆無。鶴ヶ城北出丸近くに、西郷邸跡と内藤邸跡があるが、白虎隊士生家跡はない。史跡や説明板があれば、歴史の街の訪問客にとってはおもてなしの一助になると考え、白虎隊の会では自刃白虎隊士の生家跡に記念碑と説明板を3年がかりで7基設置した。

これは福島県の地域創生総合支援事業（サポート事業）として助成金を得て実施したもの。この助成金は箱ものよりもソフトを重視しているため、白虎隊出陣劇の奉納や白虎隊の辿った道バスツアーを併せて企画実施した。

会津戊辰戦争において、召集令状を受けた白虎隊士が出陣し、飯盛山で自刃するまで僅か一日の出来事でした。白虎隊士はどこでどのように召集されたのか、どんな気持ちで出陣したのか、何処でどう戦ったのか、なぜ自刃したのか？これらを、生家跡記念碑の設置・序幕と共に、参加者に「白虎隊の一日」として体験していただくのが狙いでした。

平成27年9月に飯沼貞吉と篠田儀三郎の生家跡碑を設置した。

貞吉は唯一生残って白虎隊の真実を後世に伝えた人物、儀三郎は日向内記に代わって隊長代行を務めた人物。この二人は本事業の皮切にはふさわしいと言えよう。しかし、記念碑を建て

るためには、地権者の協力が必須。幸い、（有）きくや生花店様と秋山ユアビス建設（株）様に快諾を頂き、実現できた。石材は松平家墓碑には必須の磐梯石を塩川の古川石材店に特別に調達していただいた。また、白虎隊士の横顔を紹介する説明板を併せて設置した。



図1 白虎隊士篠田儀三郎生家跡序幕風景（2015/09）

除幕式直後には、地元会津の劇団ぴーひゃららの皆様に臨場感あふれる白虎隊出陣劇を演じて頂き、この場を大いに盛り上げて頂いた。演技者の表情が真に迫っており、百五十年前の世界に居る様に錯覚してしまいました。

なお、この日は福島テレビも取材に来ており、夕方のニュース番組で放映され、翌日の新聞に

大きく掲載された。若松市内で会津藩士の碑が建つのは初めてとの紹介があった。



図2 劇団ぴーひゃららによる白虎隊出陣劇

平成28年9月には、井深茂太郎と津川喜代美の生家跡碑と説明板を設置し、劇団の路上劇とバスツアーを実施した。井深茂太郎生家跡は現東邦銀行東邦寮の敷地、津川喜代美生家（養家）跡は現福島県立若松商業高等学校敷地を提供していただいた。

平成29年9月には西川勝太郎、安達藤三郎、石山虎之助の各生家跡に設置した。西川勝太郎は会津若松市立第二中学校敷地内、安達藤三郎は竹田綜合病院敷地内、石山虎之助は福島県立葵高等学校敷地内に設置した。敷地提供に深謝。

これまでに設置した白虎隊士生家跡記念碑（設立年、白虎隊士名、住所、地権者）を下記にまとめて示す。

- 2015年9月 篠田儀三郎生家跡…米代1
4-30 地権者…秋山ユアビス建設(株)
2015年9月 飯沼貞吉生家跡…西栄町1
82 地権者…(有) きくや生花店
2016年9月 井深茂太郎生家跡…城前3
21東邦 地権者…東邦銀行(株)
2016年9月 津川喜代美生家跡…米代1
3-31 地権者…福島県立若松商業高等学校
2017年9月 石山虎之助生家跡…西栄町4
161 地権者…県立葵高等学校
2017年9月 安達藤三郎生家跡…山鹿町3
127 地権者…竹田総合病院
2017年9月 西川勝太郎生家跡…城前1
7 地権者…市立第二中学校



図3 白虎隊士井深茂太郎の生家跡説明版 (2016/09)

七、白虎隊士生家跡案内図

会津支部長 森川敬寿

平成29年9月には、市内大手町の鶴ヶ城北出丸入り口近くの西郷邸跡向いに「白虎隊士生家跡案内図」を設置した。

この案内図は慶応年間当時の若松城下の復元図の上に現在の道路をプリントしたものに、飯盛山に眠る二十名の白虎隊士生家を書き込んだもの。百五十年前、鶴ヶ城の周りには会津藩士の屋敷が立ち並び、武士が生活していた。現在の会津若松市には勿論その痕跡はない。毎年多くの県内外や外国からの観光客が会津を訪れるが、武士が住んでいた様子を知ることができない。

そこで、「白虎隊の会」ではせめて飯盛山で自刃した白虎隊士十九名と唯一の生存者飯沼貞吉の生家跡を地図にして、観光客の目につく処に建てることにした。

この案内図を見れば、江戸時代の武士の世界が広がって、腰に刀を差した侍達が行き交っていた光景が想像できよう。また、観光客が町に点在する白虎隊士の生家跡を巡ることで、当時の思いに浸るのに資すると思われる。

当該設置場所は景観条例の該当地にあたり、許可申請が多岐に亘り苦労の連続。一時は断念もやむなしと覚悟したが、地元関係者のご協力により何とか許可された。

尚、除幕式には、会津若松観光ビューロー専務理事、会津若松市議会議長、(公財)会津弔霊義会様他多数のご参列を頂いた。



図2 自刃白虎隊士生家跡案内図



図1 自刃白虎隊士生家跡案内地図 (2017/09)

八、日下義雄顕彰碑の設置

長崎支部 工藤新一

日下義雄は飯盛山で自刃した白虎隊士石田和助の実兄である。日新館で学び、鳥羽・伏見の戦いに従軍。会津戦争では、大鳥圭介らと行動をし、落城前に会津を脱出し、箱館戦争に加わった。捕虜となり増上寺で謹慎の時に石田義雄と名乗る。のち赦免され、日下義雄と改名した。

明治4年(1871年)、長州の井上馨の知遇を得て、彼の推挙で岩倉欧米使節団に同行して、アメリカに留学。帰国後ヨーロッパを視察し、帰国後は内務省などに勤務し、明治19年に長崎県令(後に知事に名称改称)となった。同郷の神保修理の実弟・北原雅長を抜擢し、選挙で初代長崎市長として当選させると、構想していた長崎市の水道事業を完成させた。日下の最大の功績は、保健衛生の観点からコレラ感染を阻止するインフラを整備したことにあろう。また、中島川の上流に桜の木を千本植え、中川カルルスと呼ばれる桜の名所を作った。

明治25年に福島県知事となり明治32年渋沢栄一などの実業家の協力や地元資本家らと岩越鉄道株式会社を設立し、郡山と会津若松間を、喜多方まで開通させた。

長崎と会津には足立仁十史郎をはじめ講道館の姿三四郎など繋がりが多い。そこで、平成22

年に長崎支部を立ち上げて以来、「長崎と会津をつなぐ絆」の町歩き型観光の長崎さるくを実施してきたが、一番の活動は日下義雄の顕彰説明板の設置だった。9月の講演で募金を集めてから、場所の決定を協議し、新聞掲載で見直しされつつあった明治の近代化遺産でもある、通称「三角溝」のししとき川の「えごばた」(溝よりも大きく、川よりも小さい流れをえごという)に設置場所を決定した。当該自治会との折衝に多少の時間はかかったものの業者の選定も、長崎市の手続きも各関係部署の多大なる協力のおかげで順調に進んだ。除幕式に木下副会長、飯沼事務局長の出席を得たので、説明板設置記念講演会も計画した。また、急きよ石田家のご子孫ご姉妹にご出席いただけたことは何よりも嬉しいことだった。

平成25年1月26日、ここに日下義雄顕彰碑を設置し、関係者の参列を頂き序幕した。序幕式の幕は「会津の旗」を使用した。長崎市の各関係部署からも、いろいろと協力・支援をいただいた。講演会も120名の参加で用意した資料が足りなくなるほどの盛況。支部の顧問である大堀長崎歴史文化博物館館長の実家が、なんと石田家のご近所だったということは驚きでした。



除幕式参加者(中央が白虎隊士石田和助ご子孫)



除幕式挨拶(左大堀館長、右筆者)



日下義雄の顕彰碑(2013年1月26日、長崎市)

九、恩愛の碑の設置

下関支部長 吉井克也

平成28年10月15日、雲一つない紺碧の青空の下で、全国各地から百十名を超える方々のご参加を頂き、長州藩士櫛崎頼三・白虎隊士飯沼貞吉の「恩愛の碑」除幕式を執り行いました。

白虎隊士飯沼貞吉直系の孫飯沼一元氏が祖父の養育の足跡を確定するために、二度目の山口県美祢市東厚保小杉（櫛崎屋敷跡）を訪問されたのは、6年半前のこと。この地に美祢市教育委員会の手で説明版が建てられたのは平成18年11月。

飯沼家にとっては会津と長州の百年以上に亘る相克を思うと美祢高見家の伝承が史実かどうかは重大事でしょう。物証が無い中で、地元の研究家の徹底調査も継続されました。

そんな中で平成23年9月18日に京都市内で開催された白虎隊講演会で、櫛崎頼三曾孫の松葉玲子様（東京都在住）と飯沼一元様の思いがけない対面が実現しました。席上、玲子様は子供のころから貞吉の話は何度も聞かされたと言明。その後、事実関係を一元様宛てに手紙でしたためられました。それを受けて飯沼家としても貞吉長州滞在説を認定。これを機に恩愛の碑設立へ向けて本格的活動が開始されました。



図1 山口県美祢市に建立された恩愛の碑
(2018年10月15日)

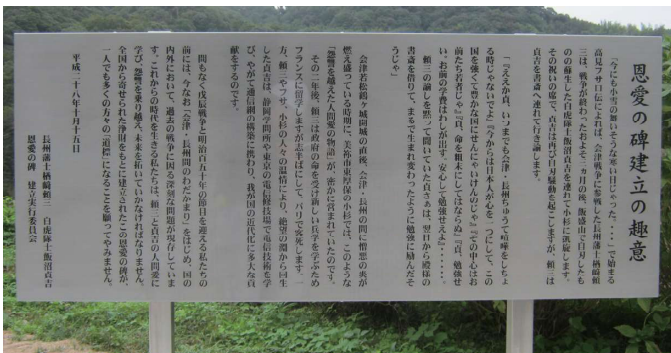


図2 恩愛の碑建立の趣意

平成27年5月に、建立実行委員会を立ち上げ、十一回に及ぶ準備会を開催し、全国約三百八十名の方々から浄財を頂き、立派な記念碑の建立に漕ぎつけました。足掛け6年、総事業費五百万円、下関支部としては画期的事業といえますよう。

この恩愛の碑は「長州藩士櫛崎頼三と白虎隊士飯沼貞吉との間に交わされた怨讐を超えた人間愛」を後世に伝えると共に、会津・長州の和解と友好にむけて、大きな力を発揮してくれるにちがいありません。

除幕式で松葉様は『この恩愛の碑の裏に「世界平和」の文字が刻んであり、頼三の残したものが恩愛の碑を通して、世界平和を実現する力になることを切に願います。』と挨拶されました。また、飯沼一元様は『今でも会津では、長州を仇だと思っている人は多い。だが、貞吉と頼三の出会いが無ければ私はこの世に生まれておらず、白虎隊の顛末も明らかになりませんでした。ここに歴史を百五十年遡って櫛崎家、高見家、小杉の皆様にお礼申し上げます。世界平和に資するならば、これに勝る喜びはありません。』と述べられました。

この後、地元長登太鼓の演奏があり、聴く者の魂を揺さぶるような名演奏が行われ、除幕式の感動を一層高めてくれました。



図3 恩愛の碑序幕記念撮影。中央右から松葉玲子様、水谷貴子様、西岡晃様、吉井、同左から飯沼一浩様、一字様、一元様、石田明夫様、安司弘子様

記念植樹では、飯沼家は「会津身知らず柿」を、榎崎家は「萩の夏みかん」を植えられました。この二本の若木の成長とともに、会津・長州間の関係改善が進むことを参例者共々願いながら、除幕式を終えました。

この度の恩愛の碑建立に当たり、榎崎家、飯沼家、高見家、地元美祢市・下関市はもとより県下・全国各地からも多大なるご支援を賜りました。

このイベントは読売・毎日・山口・中国新聞が大きく記事を掲載しました。

除幕式の後、美祢市グランドホテルを会場に、百名近くのご出席を得て祝賀会を盛大に開催することが出来ました。

下関支部としては、その後、毎年現地に集まり清掃や植木の手入れを兼ねて参拝を欠かしません。また、県内外からの訪問客の案内もしています。そんな中、戊辰百五十年を迎えた1918年3月4日に会津松平家十四代当主松平保久様ご一行が参拝なされました。萩・山口ご訪問の多忙なスケジュールを割いてのご来臨に感謝致しました。

美祢に建立 隊士救った逸話伝える



除幕式に参加した一元さん（左端）や吉井さん（右端）ら

戊辰戦争で敗れ、自刃を図った白虎隊の唯一の生存者が引き取られたと伝えられる美祢市東厚保の小杉地区に、この伝承を記念する「恩愛の碑」が建てられた。除幕式が15日、地元で行われ、長州藩士や白虎隊士の子孫らが出席。過去の憎しみを乗り越え、未来に向かって手を携える尊さを訴えた。（江口武志）

記念碑は県庁の御影石で作られ、縦約1.60、横1.80の屏風形。歴史愛好家らでつくる「白虎隊の会」が寄付を募り、約450万円かけて建てた。

同支部によくと、白虎隊

は1868年、長州藩などからなる新政府軍の攻撃を受け、敗走。一部が自刃を図ったが、飯沼貞吉（1854-1931年）が生き残った。小杉地区の庄屋だった高見家では、長州藩士の榎崎頼三（1845-75年）が飯沼を保護し、高見家に預けたといわれている。飯沼の世話をしたとされる高見フサの子孫で、同支部長の吉井克也さん（69）がこの伝承について調査。2008年に飯沼の孫の一元さん（73）（東京）と知り合った。一元さんが記念碑の建立を提案し、吉井さんらの呼びかけで昨年5月、実行委が発足した。

除幕式には、一元さんの兄弟や榎崎の子孫・松葉玲子さん（80）（東京）らも参加。飯沼や榎崎の名が刻まれた記念碑は、会津藩が組織した部隊の一つで16、17歳の府軍に敗れ、飯沼山（福島県会津若松市）で隊士約20人が自刃を図り、飯沼貞吉を除く全員が亡くなった。

十、会津藩塩川本陣跡の「白虎隊士飯沼貞吉ゆかりの地」記念碑

会津支部長 森川敬寿

令和元年九月二十三日「白虎隊の会」により
喜多方市塩川町東邦銀行塩川支店の入り口脇に
「白虎隊士飯沼貞吉ゆかりの地」記念碑を建てた。

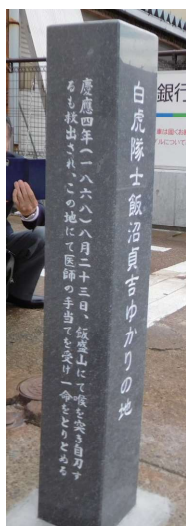
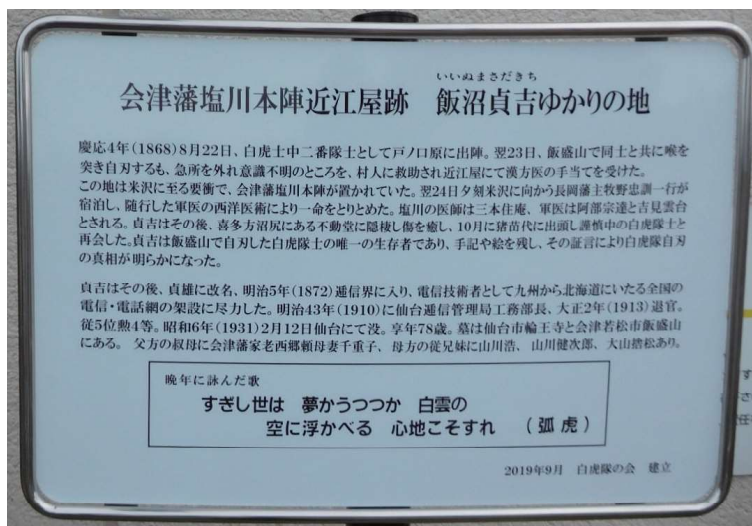


図1 東邦銀行塩川支店敷地に設置された
「白虎隊士飯沼貞吉ゆかりの地」記念碑と説明板

この場所は幕末に「近江屋」という屋号で醸造兼宿屋が営まれていた所で、飯盛山で自刃後救出された貞吉は、ここで塩川村の漢方医三本住庵の治療を受けた。

当時の塩川村は若松から米沢に至る米沢街道の要衝の地で、近江屋は会津藩の本陣になっていた。この日の夜、米沢へ向かう長岡藩主牧野忠訓一行が宿泊し、幸運にも随行の軍医阿部宗達と吉見雲台に西洋医術の治療を受け一命を取り止めた。

この間のいきさつは、平石弁蔵著『会津戊辰戦争』に詳述されているので、一部を以下に抜粋する。

宿に着き、奥の下座敷、便所に通ずる廊下の一間に入れられたが、気が緩んだと見え又々人事不肖になった。宿屋でも心配して町医者三本住庵を呼んできて、傷口を縫い膏薬を付けてくれたのが、その翌日二十四日の午前十時頃であった。然るに夕刻になると傷口がまた非常に痛み出した。丁度その時今の九時頃になると、武装した人が私の部屋に突然入ってきて、印出の婆さんと話をして立ち去った。それより十分間ほど経つとまた来て、黒皮製の箱より外科用の道具を取り出し、私の傷口を縫った糸を残らず抜

き取り、水にて洗いそのあとに白き粉薬を水にて溶き、それに綿散糸（ガーゼ）を浸し、これを丸めて傷口に詰め込み、その上を包帯した後、粉薬、ガーゼ、包帯等を十分に与え、今後の手当て法を教えてくれた。

また、白虎隊事蹟には、軍医曰く、「この傷は気管を破りたれども動脈を避けたり、治療の方法に依りては年若き人なるにより、或いは全癒す可し」と書かれている。

当場所の道路向かいには三本住庵が眠る浄土宗阿弥陀寺が有り、今も貞吉を見守っているようです。



図2 塩川記念碑序幕記念写真（2019年9月23日）

除幕式には会津の衆議院議員、喜多方市長、市議会議員、教育長、東邦銀行役員、塩川支店長、白虎隊の会会員の方々、地元の方々など三十名を超える大勢の方々が参列されました。

会津支部だより

会津の見どころ2

鶴ヶ城編①

石田明夫

今回は、鶴ヶ城の見どころ、隠れたスポット、歴史上のポイントを紹介します。

一 北出丸

①**正門石橋** 会津藩が開城を決定し、旗を掲げた場所は正門石橋と黒鉄門、もう一カ所（たぶん三ノ丸）です。白旗の布は、上町にあった土佐藩から貰ったもので、白旗掲揚自体は、西洋式の降参の仕方、鶴ヶ城が日本最初の白旗降参の場所です。

②**追手門櫓形** 追手門の手前にある石垣で、裏側が階段状になっています。本来は、門が設置されるものでしたが、門は江戸時代にはなかったか造らなかった会津戦争時でもなかった。③**追手門** 大手門は必ず右に折れた方向に造られています。それは、刀を左に差しているからで、少しでも刀の動きを遅くするためです。石垣は文化十四年（一八一七）改修記念銘の石があることから築き直し、修復されたことが分かっています。

④**北出丸** 現在は、昭和九年に建てられた武徳殿がありますが、この北出丸内には建物は小さな番所があるだけで、建物はわざと建てられなかったのです。それは、敵が進入したら、

帯廊内から一斉射撃仕掛け、皆殺しにするためでした。

⑤**椿坂** 土手に椿の木が植えられていることから呼ばれています。当初は、両側に塀がありましたが、平和な世が続く、経費削減で再建されませんでした。

二 帯廊

⑥**鏡石** 椿坂正面の大きな石。魔除けの意味があり、ここから進入禁止を意味します。造られた後に地震などで割れ、小さくなったと見られます。

⑦**遊女石** 太鼓門の北にある石、加藤時代に千人で運んだが、途中で動かなくなり、元氣付けようと、石の上に遊女を載せたところ運べたという。『新編会津風土記』

⑧**太鼓門** 休憩所入口前の机と椅子が置かれている下には、南北に番所が建てられ、いまでも礎石が点在しています。

⑨**武者走り石垣** 太鼓門南側にある石垣は、天守台と太鼓門の石垣の間が狭いことから、石垣に上るため両側に石段の合坂が設けられました。

⑩**ハート石** 武者走りの石垣には、ハートの形

をした石があります。見つけてください。

⑪**天守台石垣矢跡** 天守台の石垣は、当初は野面積みという隙間の多い石で積まれていましたが、一六一一年の慶長会津大地震で一部崩れ天守閣と共に改修されています。その時、石垣も積み直され、矢跡の石も使用されたようです。

⑫**上杉謙信公仮廟所跡** 黒鉄門北西、井戸のある付近に、上杉景勝時代、新潟、春日山から運んだ、謙信公の遺体が置かれていました。大甕に入れられ、鎧を着て漆で固められていると伝えられています。後に米沢へ移動。

⑬**黒鉄門** 鉄を扉に貼った門のため「くろがねもん」といいます。両側の石垣は、一度積まれた後に足場が組まれ、化粧のために鑿で縦方向の調整がされています。

⑭**下見板張り** 黒鉄門は、壁の下半分が板で黒くなっています。これは、豊臣時代の名残りで、板が腐らないよう黒漆を塗ったものです。

⑮**黒鉄門内容保公在所** 会津戦争籠城戦では、一番安全な場所が黒鉄門でした。西と東は石垣、北は黒鉄門を閉め、南側は高く厚く土嚢を積みました。容保公は、門内の東側石垣を背に座って指揮をしました。人に会うのもこの場所、寝るのもこの場所。一か月間ここで過ごしていました。

— 甲府市在住 会員 長谷川 敏夫

まったく恥ずかしい話ですが、私の気持ち
が「会津」に向かったのは東日本大震災のと
きからでした。

小さな絵本屋をやっているのですが、ブッ
ククラブという方法なのでお客様が全国にい
ます。ですから、震災のときは、まず東北四
県のお客様の安否確認となりました。電話が
つながると事態が事態なので多く長話になり
ます。

そんな中で、会津若松の佐藤美智子さんと
話していたとき、原発の話に続いて、じつに
興味深い話が飛び出しました。

「ここ会津では、山口県や鹿児島県の方との



筆者（2016年9月23日）

結婚が許されないという不文律があるのです。
それは、百五十年前の戊辰戦争で……」

『自由恋愛の世の中に、そんなことが、まだ
あるのか!』と絶句でした。

戦後生まれの私には戊辰戦争は「鳥羽伏見
で始まり五稜郭で終わった」という知識のみ
で、教科書にも「北越戦争」、「会津戦争」、「奥
羽越列藩同盟」の言葉はなかったのです。「白
虎隊」の話は知っていましたが、「忠臣蔵」と
同じような歴史認識にすぎませんでした。

そこで、関連の本を読み始めました。最初
は綱淵謙錠の「戊辰落日」……精緻な筆運び
が、重苦しく頭にのしかかってきました。

思わず落涙してしまったのは早乙女貢の
「會津土魂」。「こんな歴史はどこにも書いてな
かったぞ!」と思わされた星亮一「私たちの
会津戦争」……明治以降、隠されてきた歴史
の数々です。すぐその後、大河ドラマ「八重
の桜」が放映され、視覚からもしっかり心に
焼き付いた「会津戦争」となりました。

会津若松で幼少期を過ごした絵本作家の仁

科幸子さんから「ぜひ一度、行ってみてくだ
さい。美しい町ですよ」と言われたのをきつ
かけに、二年続けて初秋の九月二十三日から
三日間ずつ、旧跡を訪ね歩きました。なるほ
ど、それは多くの特別な思いを抱かせてくれ
た旅になりました。

日新館では突然の驟雨で雨が吹き込み、勝
手ながら戸を閉めていくと責任者の方が飛ん
できて丁寧なお礼の言葉をいただき、説明付
きで案内してくれました。

鶴ヶ城では戊辰百五十年展が行われていて
孝明天皇の御宸翰の展示も偶然の幸運。「親
筆なのか祐筆の手になるものか?」と尋ねる
と係の方の丁寧な説明がありました。

やはりウチのお客様であった川口浩子さん
と佐藤さんが案内してくれた「石部桜」も忘
れ得ぬ記憶となっています。

川口さんは不遇な赤ちゃんの里親になると
いう会津女性の強さも持つておられた方でし
た。そして「これを読んでみてください。」と
いただいた本が中島欣也「伴百悦」。いかに会
津人がくやしい思いをしていたかが伝わる「復
讐の後日談」です。

二度目の旅で宿泊したのは「向瀧」という
瀟洒な旅館でしたが、若い番頭さんや仲居さ

んの控え目で心のこもった接客に感じ入りました。最近の若者とは思えない受け答えでした。

「旧跡を訪ねるなら、ぜひ容保公のお墓を！」
と言われて翌早朝、急遽訪問。

おどろいたのは墓前にすでに生花が活けられ、線香が炊かれていたことです。朝七時ちよつと過ぎなのに、急坂の上の墓所の何か所にもその供養が……百年以上続いているのでしょうか。いまだに偲び、弔う気持ちが残っていることに心底、驚きました。

その後も会津では続々とつながりができていきました。

くだんの川口さんや同じくお客様の佐瀬朋子さんから紹介していただいたのは会津放射能センターの片岡輝美さんです。講演で甲府に來た折に店にも寄っていただきました。子どもたちを放射能被害から守る筋の通った活動をされている方です。話すうちに大学が同じであることもわかり、人のつながりの不思議さも感じました。そして「会津に関心がありなら、飯沼一元さんをご紹介しますね。」ということとなり、一元先生の知遇を受ける光栄を得たのです。

御著書「白虎隊士飯沼貞吉の回生」も拝読しましたが、驚いたのは仇敵の長州藩士によ

る庇護の話です。恨みや復讐心を超越する温かさを誰しもが持っているということ、そこでは人のつながりが人をして恩讐の彼方に向かわせることが、そのエピソードに暗示されていた。

私は、良い心の持ち主がつながっていくことで社会は良くなると信じています。

いま政治の腐敗から「不義」が横行し、「ならぬことをする人々」で世の中がゆがみ始めました。会津の教育が極めた「義」や「仁」が復活しなければ！と思わざるを得ません。しかし、いまの世の流れでは実現は無理。欲のためになんでもありの状態では社会も家庭も学校も崩れていくだけです。

このままでは、金儲けだけの実学、無意味な消費をする殖産興業、やがては富国強兵につながる時代に逆もどりとなってしまいます。その先は知っての通りです。

では、どうするか。

これにあらがうひとつの方法として子どものころからすぐれた本に触れることが大事と考えました。子どもの発達に沿った本や物語を個別のプログラムでお子さんのために組み立てて選書する試み。人と人のつながりを復活させ、自分の考えをつくるための重要な力

を子どもの中で育てたいと思い、四十年間続けています。

会津戦争を知らなかったとはいえ、私の祖先是越後の津川近在の出。過去のどこかで会津とかかわりがあったのかもしれない。時空を超えてまっとうな人同士をつなぐ志をもつて、これからもがんばろうと思います。



下関支部報告

支部長 吉井克也

一 はじめに

あの東日本大震災から十年が過ぎました。犠牲者の御霊に改めて哀悼の意を表します。そして、ご遺族と行方不明者のご家族の方や未だ避難生活をよぎなくされている方々に思いを馳せ、十年前のあの出来事を決して風化させてはならないと、下関支部会員一同決意を新たにしています。

二 本年度の支部活動

今年は新型コロナウイルス感染防止のため、研修活動や講演活動もできず、自粛の静かな年になりました。主な活動は、次の通りです。

(1) 六月六日 会津藩間諜神戸岩蔵墓整備活動と命日の墓参

神戸岩蔵について

岩蔵は会津藩士神戸内蔵盛義（一八〇石目付役）の二男として生まれた。その後兄の刃傷事件により家は謹慎処分を受ける。岩蔵は家名回復のため、一八歳の時、家を出奔し馬関（下関）に潜入し、当時攘夷戦争で揺れていた長州藩の情報を京都に送っていたが、役人に捕まり二十歳で処刑された。その取り調べの際の岩蔵の立派な態度が、長府藩の武士たちの中で語り草になり、



神戸岩蔵慰霊祭：H23.1.29

今日まで伝えられている。墓は長府道玄堂山（長府藩私刑場跡）にある。

旧長府藩士桂弥一翁や、相馬出身の斎藤純一氏（下関に在住）らがその時々々に位牌を調整したり、香華を手向けたり、慰霊祭を行うなどされてきたが、いつしか孟宗藪に覆われた。

この孟宗藪を切り開き、岩蔵墓まで、道をつけ、慰霊祭を行うことが、下関支部発足の初仕事でした。当日は、会員と地域の方々二五名の参加を得て、整備作業・慰霊祭・研修会を開催しました。今年の参加者は一二名。十年前を振り返りながら、「随分楽になったものだ」と口々に語り合いました。

八月二日の岩蔵命日には、会員十名が参加し、岩蔵さんと会津大龍寺にある神戸家墓地を偲びました。この後予定していた研修会は中止しました。



街道ウォーク：R2.10.25



会津見知らず柿：R3.1.28

(2) 六月六日 恩愛の碑整備活動

近年、岩蔵墓と恩愛の碑整備活動は、長府から美祢までの移動時間を考慮しながら、同日開催にしています。下関組が岩蔵墓の整備を終えて、恩愛の碑にたどり着いた時にはすでに美祢市の皆様が作業を始めておられ、その中には、美祢市長様や教育次長様が今年も草刈機をもってご参加下さいました。美祢市と下関市総勢一八名のパワーはあつという間に周辺全体の整備を終えました。

作業後は、碑の前で弁当を食べながら、情報交換会をしたかったのですが、コロナ下ゆえに弁当は持ち帰りにしました。

記念樹の「会津見知らず柿」は、猛烈に成長しています。一方「萩の夏みかん」は、芯喰虫にやられ、一時心配しましたが、無事危機を脱しました。

(3) 十月二五日 赤間関街道ガイドウォークの皆様四〇名が檜崎屋敷を訪問。恩愛の碑のガイドを行いました。

三 十年間の歩み

○ 平成二十年九月二十日 京都山口県人会会長の中村正氏とともに飯沼一元氏が美祢市櫛崎屋敷を訪問。高見フサ子孫と対面。

○ 平成二二年三月、飯沼一元氏が戊辰戦争研究会ご一行と二度目の櫛崎屋敷訪問。この地で、祖父が養育されたことを断定し、この地に「貞吉回生の記念碑」を建立したいとの心情を表明する。

○ 平成二二年十月一九日 飯沼一元氏、中村正氏を迎え、会員一九名で、白虎隊の会下関支部を立ち上げる。

○ 平成二三年一月二九日 神戸岩蔵墓整備と慰霊祭を行う。

○ 平成二三年三月一日 東日本大震災が起る。直ちに義援金を募り、白虎隊の会本部に贈る。

○ 平成二三年七月三日 「義と志の長州の旅（美祢・萩）」研修旅行

○ 平成二三年十月十九日 長府万骨塔に山川健次郎霊石安置除幕式を行う。（P3）

○ 平成二四年三月三月「白虎隊士飯沼貞吉の回生 飯沼一元 著」、同六月「あずさ弓の如く 苑場 凌 作」が相次いで出版される。山口県内図書館、美祢市・下関市の小・中学校に寄贈し、県内各地の書店に働きかけるなど拡販に努める。

○ 平成二四年十月十九日 飯沼一元氏・苑場凌氏を迎え、下関で出版記念会を行う。これに先立ち、同日美祢市の有志を対象に会議を開き、飯沼一元氏が再度「貞吉回生の記念碑建立」に向けた思いを語る。

○ 平成二五年七月六日～七日 「九州の中の会津を訪ねて」研修旅行

○ 平成二六年二月、京都で吉井克也支部長が、櫛崎頼三玄孫櫛崎健志氏と面会し、記念碑建立の同意を得る。

○ 平成二六年十月二十日～二十二日 「会津・白河慰霊の旅」研修旅行

○ 平成二七年二月一八日～平成二八年九月十五日 建立準備会・建立実行委員会を一回開催し、除幕式を迎える。

○ 平成二七年十月二二日 「周防路の旅（徳地・柳井）」研修旅行

○ 平成二八年十月十五日 恩愛の碑除幕式並びに祝賀会を行う。（P12～13）

○ 平成二九年一二月二日 長崎会津会主催「大堀 哲会長追悼講演会」に招聘

○ 平成三十年三月四日 会津松平家一四代当主松平保久様が恩愛の碑ご来訪。

○ 平成三十年七月一四日～一五日 「白河戊辰一五〇年合同慰霊祭」に参加（支部研修）

○ 令和元年 研修会・講演会・岩蔵墓地と恩愛の碑整備活動・赤間関街道ガイド等

○ 令和二年 新型コロナによる活動自粛。整備活動とガイドのみ行う。（P18）



出版記念祝賀会：H25.10.19



下関支部発足：H22.10.19



松平保久様ご来訪：H30.3.4.



山川健次郎霊石安置前夜祭：H23.10.19

四 おわりに この十年間を振り返って一番の感想は、「何と多くの人と出会い、何と多くの人に支えられたか」ということです。そのすべての皆様に心から感謝申し上げます。これからも「会津・長州の友好」に向けて真摯に取り組んで参りますので、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

寄稿2

戊辰戦争「白河口の戦い」余話 伝承「十六ささげ」隊長阿部内膳とミキ姫

白河市在住 会員 安司弘子

戊辰戦争時、奥州棚倉藩に「十六ささげ」と呼ばれた部隊がありました。

「ささげ」「豆や「捧げ」るさまを想像させるこの部隊を率いたのは、慶応四年（1868）二月、藩主阿部正静に棚倉から白河への復封の沙汰があったとき、城の受け取り式に立ち会った棚倉藩主阿部家の一門、阿部内膳です。内膳の父正脩もまた、文政六年（1823）武蔵国忍（現行田市）から白河へ移封の際に、白河城の受け取り役を果たしています。

隊の名前は「誠心隊」。家禄を返上し、家族一人に対し一日玄米五合づつを頂戴する事にして宇迦神社に集まりました。西洋嫌いの藩士たちが隊長阿部内膳の指揮下、鉄砲組八人、弓組七人で、和装での別手隊を編成して出陣したと言います。

当時はすでに洋式の軍装が一般的になっていましたが、頑としてこれを拒み先祖伝来の甲冑に陣羽織を身につけて戦いました。

戊辰戦争の中で最も長い戦場となった「白河口の戦い」。その最大の激戦日だった五月一日の戦いで、内膳は家老平田弾右衛門の指揮のもと、棚倉藩隊長として白河城下の桜町関門を守り薩

摩藩四番隊と戦っています。しかし優秀な火力と戦術の前に、古来の戦法では太刀打ちできず敵の銃弾に斃れ、その遺体は、常宣寺（白河市）に葬られました。

十六ささげ隊士は、隊長を白河合戦で失った後も結束してよく戦い、同じように黒装束で奇襲戦法を用いた仙台藩の細田十太夫が率いる「からす組」とともに、『仙台からすと十六ささげ なけりや官軍高枕』と謳われるほどに敵兵から怖れられました。

戊辰戦争終了後、明治政府は旧藩の戦争責任者を訴追しましたが、どの藩もそうであったように、藩主を首謀者にするわけにはいかず、棚倉藩は、既に死亡していた阿部内膳の名前を届け出しました。

さて、白河市東釜子畑中集落に、竹林に囲まれ荘厳な雰囲気漂わせる一郭があります。周囲と隔絶された感があるこの場所には、かつてミキ姫と呼ばれる方が暮らしていました。この方こそ阿部内膳の娘で、棚倉城に戦禍が迫る中、ミキ姫と母君はそれぞれに短剣を与えられて、深仁井田村（白河市東釜子深仁井田）の国津神社

に逃げ延びました。

白河口の戦闘盛んな中、ミキ姫たちのもとに、「内膳様が合戦坂で重傷を負ったので、敵に見つからないように木の枝や葉っぱを被せ、十本の鯉節を置いてきた。戦争が終わったらすぐに行かれるように」と二人の家来がやってきて告げました。

後日教えられた場所に行ってみると、鯉節を一本残し内膳は虫の息でした。

時代は明治に移り、この神社の参道入口に住む小林家に赤ちゃんが生まれ、おじいさんに負ぶわれて毎日やって来るようになりました。この赤ちゃんをミキ姫は我が子のように可愛がり、小林家との交流が続きます。

やがて、大きくなった赤ちゃんに嫁ぐ日が来ると、ミキ姫は「私もついて行く」と言って、「阿部稻荷大明神」の祠とともに嫁ぎ先橋本家の離れに移り住みました。

その後、阿部家の遺録を受け継いだミキ姫は、時折たずねてくる甥を心待ちにしながらひっそりと暮らしました。

大正九年に七十五歳で亡くなるまで、生涯独身のまま誇り高く生きて、鬱蒼とした集落の共同墓地のなか、橋本家の墓域にあの赤ちゃんだったトリさんとならんで眠っています。父内膳が、反逆首謀者に擬せられて、絶家になるという混乱の中、ミキ姫も時代の激動に流されてしまったのでしょうか。

本部だより

1. 会員

2020年度の新入会員は2名（昨年比－2）でした。会員名簿管理上、会費2年未納者は休会、3年以上は退会とし、物故者と共に名簿から削除しました。その結果、2021年3月末現在、名簿登録会員数は105名（－1名）となりました。内訳は一般68（－2）、特別会員（役員を含む）36（＋2）、賛助1（－1）。地域別内訳は会津24（＋1）、東京38（－0）、下関12（－1）、京都7（0）、長崎4（0）、その他20（－1）名となりました。

2. 活動

主な活動実績は表に示すとおりです。

年月日	主な活動（予告を含む）
2021年9月22日（予）	会津藩滝沢本陣白虎隊出陣・帰還の地記念碑序幕（会津若松市）
2021年5月24日（予）	大窪山墓地補修
2021年4月24日	春の飯盛山墓前祭休会
2021年4月16日	会報第11号発行
2021年4月2日	年次総会（インターネットで）
2020年11月10日	会津史談会会報に論文「会津米とコロナ対策」を寄稿
2020年4月24日	会津会会報に論文「白虎隊の記念碑設置」を投稿（森川・飯沼）
2020年4月24日	春の飯盛山墓前祭休会
2020年4月16日	会報第10号発行
2020年4月2日	年次総会（インターネットで）

3. 決算報告

今期は事業関係の支出はありません。広告費は会津会々報に毎年見開き2ページの広告を出稿しています。多額のご寄付を頂いた方に感謝申し上げます。

白虎隊の会		貸借対照表		単位（円）	損益計算書		単位（円）
資産の部	1,425,761	負債の部		0	収入の部		支出の部
現金及び預金	1,425,761	未払金		0	会費	231,000	HP管理
未収入金	0	負債の部合計		0	寄付	139,000	会誌発行
		前期繰越残高	1,091,453		書籍代	77,700	広告費
		今期損益金	334,308		会報名刺	0	説明版設置
		次期繰越残高	1,425,761		助成金	0	通信費他
資産の部合計	1,425,761	負債純資産合計	1,425,761				今期損益金
会計監査	令和3年3月31日現在				合計	447,700	334,308
							447,700

会計監査

令和2年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和3年3月31日 会計監査役 緑川 正和 印

4. 2021年度の計画

新規会員獲得目標5名、総事業費は50万円を予定。

1. 会津藩滝沢本陣近くに白虎隊出陣・帰還の地記念碑を設置し序幕（石田他）
2. 会津大窪山墓地の補修（飯沼他）
3. 2年後の戊辰155年に向けて、子孫隊出陣の準備開始（森川）ほか

白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年（慶応4年）3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いました。

数え年16～17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、17名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで、会津の教え、を健気にも最後まで守り通しました。

会津の教え、とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇国への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから144年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎え、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないのでしょうか？

私たちは白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画 の3つを中心に会員自らの活動を原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同
文責 発起人代表 飯沼一元

《編集後記》

コロナで全てがおかしくなりましたが、会報は11号を24ページの豪華版でお送りしました。

100年前のスペイン風邪では日本の人口の40%が感染し、38万人が死亡しました。戊辰戦争の戦死者よりも多いのですが、第2次世界大戦ではその10倍近い300万人の命が失われました。今ある私たちは先人の多くの犠牲の上にあることを痛感します。

最近、汚職や忖度がまたぞろ増えてきました。「ならぬことはならぬ」という会津の「筋・ケジメ」がいかに大切かを実感します。

戊辰戦争で散った白虎隊士に学ぶものがあると信じ、白虎隊の会を立ち上げて11年。“義”に生きた白虎隊士を現代の若者に伝えたい。

会誌第11号を皆さんの協力により、発行することができました。継続は力なりと自分を戒めながら、老骨に鞭を打っています。

2021年3月 飯沼記

♪白虎隊の会について♪

★入会は自由です。入会金は無料・年会費は三千元です。

5年分一括納入へのご協力をお願いしています。

郵便振込先加入者名：白虎隊の会 □座記号番号00100-1-616556

【白虎隊の会】事務局

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654

発行責任者 事務局長 飯沼一元

ホームページを変更しました：<http://byakkotai.club/>

検索